

You, Unlimited

Faculty of Sociology



RYUKOKU
UNIVERSITY

龍谷大学
社会学部

2026

More Ways More Possibilities

健康 メンタルヘルス 格差
ジャーナリズム

映像制作 公共性
社会参画

メディア 環境問題 貧困
ソーシャルワーク

スポーツ 社会福祉

宗教 グローバリゼーション

多様性 ポピュラーカルチャー

差別 社会保障

社会を広く見つめ、 新たな可能性を見出す

私たちの社会は、ますます複雑で多様になっています。

既存の枠にとらわれず、自ら課題に気づき、思考を深め、

より良い未来をともに創る人間を育成する。

それが、龍谷大学社会学部の教育のあり方です。

リアルな現場で考え、地域や世界の課題と向き合う。

さまざまな事象を学び、理論と実践を往復しながら、自身の視野や関心を広げる。

多様な価値観に触れ、自らを省み、生き方やしあわせを探究する。

社会、そして個人の課題と向き合いながら、人間の生きる喜びやしあわせの探究を通して
誰一人取り残されない社会の実現へ、ともに歩んでいきます。

現代社会領域

差別や格差、ジェンダーギャップ、環境汚染など、現代社会における日本や世界のさまざまな社会問題を幅広く学び、その解決を模索する領域。

健康・スポーツ社会領域

生活に多彩な影響を与えるようになったスポーツやメンタルヘルスなど、私たちのからだところの健康から社会のあり方を学ぶ領域。

社会学部 総合社会学科

文化・メディア領域

芸術や文化、宗教と社会との関係、メディアやジャーナリズムと社会との関係を学び、人々のつながり方や価値観のつくられ方を研究する領域。

現代福祉領域

貧困をはじめとする福祉をめぐる社会問題と、その背景にある社会の構造を学び、誰もがその人らしく生き、安心して暮らすことができる社会の実現を実践的にめざす領域。

4-Year Studies

学部サイト



4年間で何を学ぶ？

興味・関心にあわせて学びをデザインし、系統的な履修を行うため、領域を設置。出願時に領域を選択します。

現代社会領域

差別や格差、ジェンダーギャップ、環境汚染など、現代社会における日本や世界のさまざまな社会問題を幅広く学び、その解決を模索する領域。



文化・メディア領域

芸術や文化、宗教と社会との関係、メディアやジャーナリズムと社会との関係を学び、人々のつながり方や価値観のつくられ方を研究する領域。



健康・スポーツ社会領域

生活に多彩な影響を与えるようになったスポーツやメンタルヘルスなど、私たちのからだところの健康から社会のあり方を学ぶ領域。



現代福祉領域

貧困をはじめとする福祉をめぐる社会問題と、その背景にある社会の構造を学び、誰もがその人らしく生き、安心して暮らすことができる社会の実現を実践的にめざす領域。



	1年次	2年次	3年次	4年次
	自分が興味をもつ領域を選んで入学	学部共通の必修科目を学ぶと同時に入学した領域に応じて専門的な学びを深める 多様な授業を通じて自分の興味を鍛え、新たなテーマを見出す	新たなテーマに沿ってプロジェクト科目群(演習・実習)を選択 理論・実践・考察を往還し 領域横断的に学ぶ	自分のテーマを掘り下げ 卒業論文執筆
領域別に入学	学修の基盤を形成するための「基礎教育科目群」 - 基礎ゼミナールA・B - 社会学への招待 - 社会福祉学への招待 - 社会調査入門 - 社会イノベーション実践論 など		プロジェクト科目群(演習・実習) テーマ例 学生の興味のあり方によってさまざまにテーマを設定	
現代社会領域	4領域の特色ある科目「専門教育科目群」 - 階層と格差の社会学 - ジェンダーと家族の社会学 - グローバル化の社会学 - 逸脱と犯罪の社会学 - 歴史と記憶の社会学		領域横断的に学ぶ 3・4年次には全員が合流して学び合える「プロジェクト科目群(演習・実習)」で、自分の興味のある社会問題をテーマに、多面的な学びを深めます。	
文化・メディア領域	- 公共社会学Ⅰ・Ⅱ - 質的調査法 - 量的調査法 - 社会学の歴史と理論 - ソーシャルワークの基盤と専門職 など		専門教育科目群 講義(理論) 往還 演習(考察) ↔ 実習(実践)	
健康・スポーツ社会領域	- 集団とネットワークの社会学 - 子ども社会学 - 都市社会学 - 地域社会学 - 環境社会学 など		多文化共生と多様性 ジェンダーとセクシュアリティ 現代社会における文化と宗教 メディア実践 プロスポーツクラブと地域 農業と地域社会 公衆衛生と健康なまちづくり 都市祭礼の現状、継承と課題 ジャーナリズム アジアにおける仏教ソーシャルワーク 教育格差 スポーツマネジメント … など	
現代福祉領域	- アートと社会 - 文化と表象の社会学 - ラジオ番組制作 - インタビュー技法 - 広告と社会		学部共通コース	
	- 健康とライフスタイル - 健康と病の社会学 - 健康心理学 - アウトドアスポーツ演習 - スポーツ社会学			
	- 現代生活と保健衛生 - レクリエーション実技 - 地域とスポーツ - スポーツとビジネス - スポーツと身体 など			
	- 地域福祉論 - ソーシャルワークの理論と方法 - 貧困に対する支援 - 社会保障論 - 国際福祉論			
	- 児童福祉論 - 社会的企業論 - ボランティア・NPO論 - 多文化共生論 - 社会福祉調査の基礎 など			

POINT

1

4つの領域における特色ある科目をまとめた
「専門教育科目群」(一部抜粋)

- 入学時に選択した領域に応じて、特定分野の専門性を身につけます。
- 3年次から始まるプロジェクト科目群で設定されるテーマに関する理論を学修する場。
- 現場での実践を行う前に、基礎的な理論・知識を学び、現場での経験を踏まえて応用的な理論・知識を学びます。

現代社会領域



階層と格差の社会学

階層と格差の出発点ともいえる教育を主なテーマにしながら、家族社会学、都市社会学、犯罪社会学などを幅広く学修。社会的な考え方を身につけます。

ジェンダーと家族の社会学

現代の理想的な家族像は「近代家族」という新しいモデルにすぎません。ジェンダーの視点から家族を見つめ、当たり前と思っている家族像を相対化していきます。

逸脱と犯罪の社会学

犯罪や自殺など、ルールから外れた「逸脱」が蔓延する社会について学びます。さまざまな問題現象を観察して、その原因や対処を考察し、社会のあり方を考えます。

文化・メディア領域



メディアの社会学

海外での新聞記者経験をした教員が、日韓ジャーナリズムの現場で何が起こっているかを解説。また、日韓のメディア事情を比較して、共通点や相違点を探ります。

インタビュー技法

ニュースがどのような形で取材され、届けられているのかを学びながら、信頼できる情報を見極める力を養います。また、インタビューや記事執筆の練習も行います。

文化と表象の社会学

落語、講談、ドキュメンタリー、短編映画、小津映画、歌舞伎などを取り上げます。文化と表象について、また、文化と表象をとおして現代社会について考えます。

健康・スポーツ社会領域



健康とライフスタイル

健康づくり活動は、経済効果を上げ、人々に生きがいをもたらします。健康に暮らせるコミュニティの構築をめざして、健康の意義や生活習慣のあり方を学びます。

スポーツとビジネス

スポーツ産業の歴史的背景や産業構造を概説したうえで、ビジネス上の意思決定を分析。スポーツや社会に対してどのような影響を与えることになるのかについて考察します。

現代の精神保健の課題と支援

心の健康や、それを増進する方法について学びます。また、ライフサイクルに応じたメンタルヘルス、ストレスへの対処、心の病の予防などについても取り上げます。

現代福祉領域



地域福祉論

人とのつながりが希薄化する今、行政や住民などが連携して「地域共生社会」をつくるのが求められます。地域福祉の現状や課題を学び、今後の展望を考えます。

児童福祉論

児童を取り巻くさまざまな問題状況を理解し、その問題状況を解決するための児童福祉の法律・専門機関・具体的なサービスについて事例をとおして学びます。

貧困に対する支援

主に貧困問題を対象とする「生活保護制度」の現状と課題を学びます。貧困観の移り変わり、生活保護法の概要、生活保護の問題点、援助活動などを取り上げます。

POINT

2

多様な実習科目 (一部抜粋)

- 低年次から各領域の専門的な実習教育を展開。
- 該当する領域の学生のみ学修できます。

現代社会領域

社会探究実習

主に京都地域で展開されている先駆的な社会問題解決の現場に身を投じ、協働的实践に取り組んでいく機会を提供します。受講生は自らの問題意識に応じて、若者支援・環境問題・国際協力・まちづくり等のテーマの現場のいずれかを選択し、各地域の受入先で提供されるプログラムに参加することとなります。そして、それが単なる活動体験で終始しないよう、関与しながらの観察に取り組むこととなります。

文化・メディア領域

映像制作演習

地域や社会課題をテーマに、実在の人物・組織に密着し、5～10分程度のドキュメンタリー作品を制作し、企画・撮影・編集についての発展的修得をめざします。また適宜、著作権や期待権といった諸権利・諸概念や、制作倫理についても取り上げ、実技と理論との融合・往還を図ります。

健康・スポーツ社会領域

アウトドアスポーツ演習A

アウトドアスポーツのパフォーマンスの向上はもちろん、地域資源としてのアウトドアスポーツ環境の実態理解と観光資源としての新たなアウトドアスポーツ観光パッケージの創出をめざします。アウトドアスポーツを自分の生活のなかに生涯スポーツととらえ、今後のコミュニティリーダーのコミュニケーションツールの一つとして学びます。

現代福祉領域

インクルーシブ教育(音楽療法)

音楽療法を理解し、また知的障がいのある方々と体験することで、福祉の現場や社会生活において応用して反映できるだけの対象者のとらえ方と実践力を身につけます。音楽療法の概念および対象者のとらえ方を学んだうえで、実際に対象者と接して、個々に表出される行動や内面をとらえられるかを体験します。

共通

海外フィールドワーク

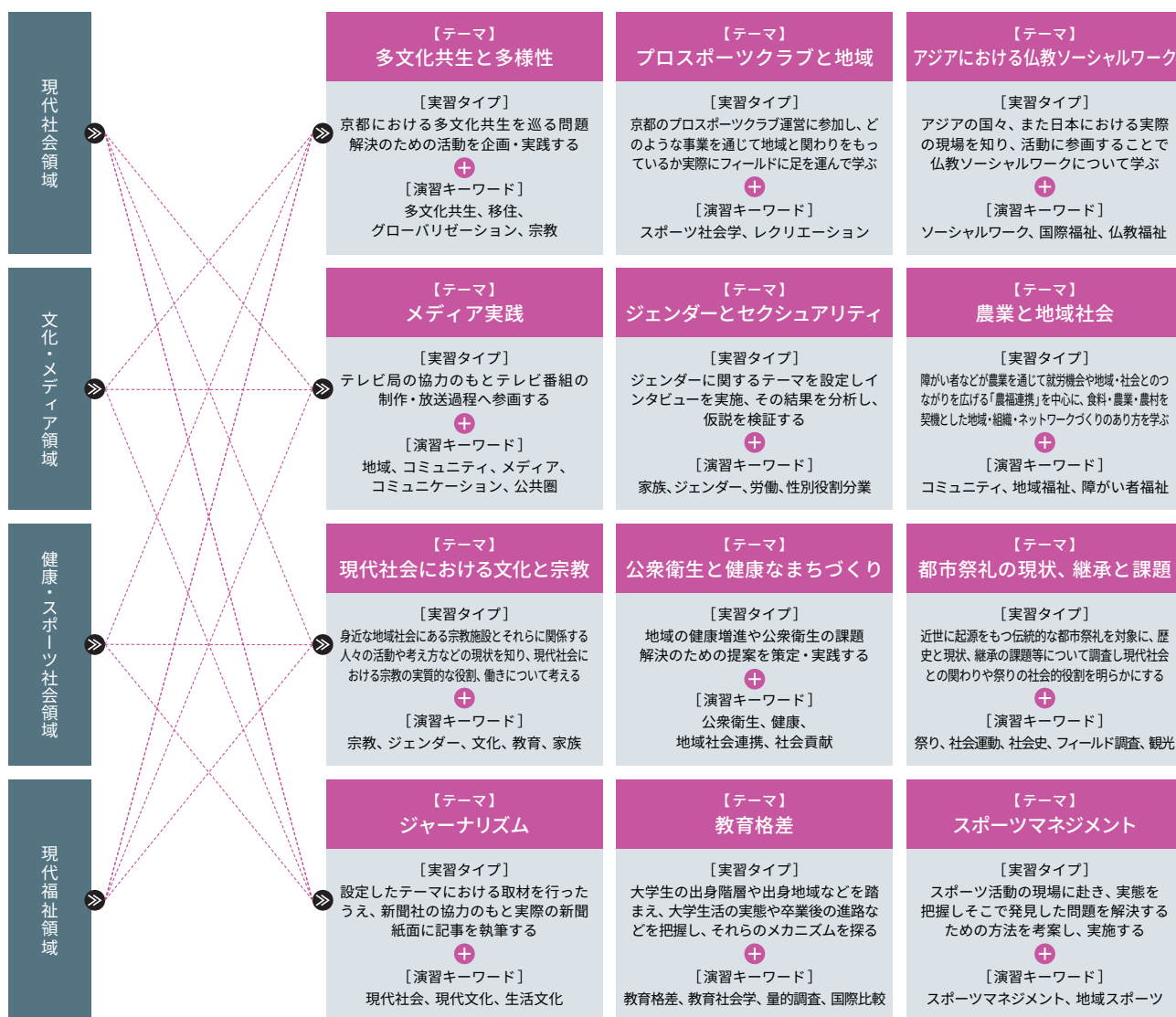
海外における研修や活動に参加することによって、ネパール・中国・オーストラリアでの実習を予定しています。異文化の「現場」において新たな経験をもつ機会を得られるようにします。

3 プロジェクト科目群

領域が融合して社会問題にアプローチするプロジェクト科目群

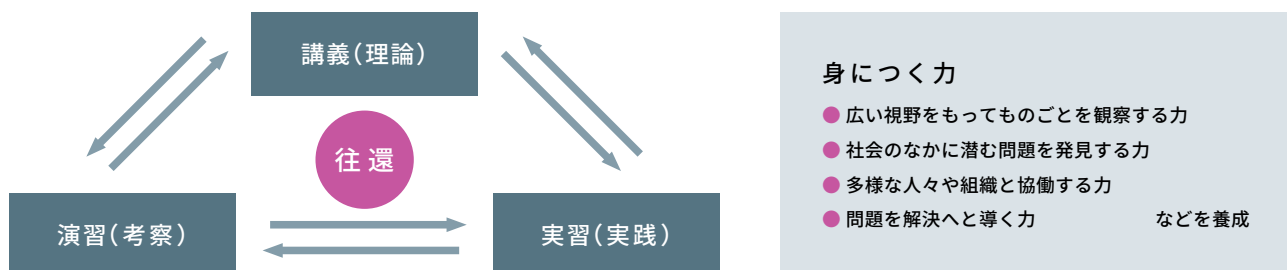
- 領域別に入学者、それぞれの志向性に応じた系統的な履修で特定分野の学びを深め、研究したいテーマを設定する。
- 3年次からは領域が融合。自分のテーマに沿って「プロジェクト科目群（演習・実習）」を選択する。
- 同一テーマで「演習（ゼミ）」と「実習」の少人数クラスをそれぞれ履修。複合的な視点から研究と実習の学びを深める。
- 各自で設定したテーマを徹底的に掘り下げ、4年次には卒業論文を執筆する。

学生の興味のあり方によってさまざまなテーマを設定（以下は一例）



（一例）

講義×実習×演習を往還し協働して問題解決できる力を身につける



Projects #1

震災によるコミュニティの分断

七田 圭希さん

3年生
(徳島市立高等学校 出身)



人々の語りから明らかになった 被災地域でつながることの困難

東日本大震災の被害を受けた福島県・宮城県・岩手県を訪れ、質的調査を行いました。質的調査とは、個々人へのインタビューからわかった生活を社会的な文脈に重ね合わせていく研究手法です。浮き彫りになったのは、帰還困難区域に指定されていた地域における顕著なコミュニティ

の分断でした。震災によって以前の人間関係が失われ、居住可能となった今でも帰還者が少ない地域は、人とのつながりをつくりにくい状況にあります。そういった社会問題に一市民として向き合って考えていく姿勢が、今回の実習をとおして養われました。

Projects #2

子どものスポーツ離れ

内堀 真夢さん

2年生
(滋賀県立長浜北高等学校 出身)



チームのホームタウン活動に スポーツ振興のヒントあり

子どものスポーツ離れを改善するには、スポーツに親しみをもてるイベントが有効です。京都サンガF.C.や滋賀レイクスなどのプロスポーツチームのスタッフとなる「JB実習」では、そういった子ども向けブースやホームゲームの運営をサポートします。企画自体の妥当性やクラブチームへの選

元などを熟考しながらスタッフ間で話し合う過程を通じ、社会で求められる企画力が身につきます。また、チームのホームタウンを訪れることで、各地域の現状や課題を目で見て感じられました。この実習で学んだスポーツビジネスのノウハウを、将来のキャリア形成に活かしていきたいです。

Projects #3

公益性のある情報の共有

あきは
藤原 白羽さん

2年生
(兵庫県立香寺高等学校 出身)



市民が知るべき事象に光を当て
文章を介して世の中に広める

記者には、大切な情報を広く伝えるという役割があります。その仕事内容を体験できるのが「学生記者実習」です。学生自ら興味をもった滋賀県内の場所や人について取材を行い、執筆した記事は毎日新聞滋賀県版「しがキャンパス」欄に掲載されます。実習のなかで不特定多数の読者を想

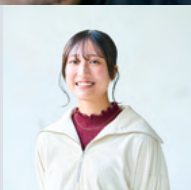
定した記事づくりをとおして、私は、大学のレポートや友人へのメッセージを書く際にわかりやすい文章を意識するようになったほか、相手を傷つけたり誤解させたりしない発言を心がけるようになりました。それらの学びを活かし、将来は旅行業や運輸業の情報発信に貢献したいです。

Projects #4

福祉におけるサービスの質

假屋 杏純さん

3年生
(大阪府立四條畷高等学校 出身)



その人らしく生き続けるためには
多角的に追求し続ける支援が必要

高齢になると、身体が不自由になったり、認知症になったりすることで、これまでの生活を継続することが難しい場合があります。どのような状況でも、その人らしさを大切に続けるためにはどうすればよいのか。私は、そのヒントを実習で得ました。特別養護老人ホームで利用者さんに関わったり、

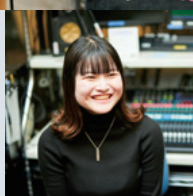
実際の会議に参加して各職種の考え方に触れたり、周辺地域を歩いて施設のあり方を理解したりするなかで見えてきたのが「寄り添う支援」でした。一人ひとりの利用者さんに丁寧に関わり、意思や尊厳を守りつつ、第三者目線も忘れない。そのような思いをもって福祉現場で働きたいです。

Projects #5

責任をもった情報発信

小泉 明香理さん

3年生
(大阪府立夕陽丘高等学校 出身)



個人の顔が見える放送局から 「リアル」な情報を届ける

不正確な情報や誹謗中傷により人々の心や生活が脅かされている昨今、信頼できるメディアの必要性が高まっています。「龍大ラジオタックル」では、実態のある放送局を通じ所属や氏名、素顔を明らかにしたパーソナリティが情報発信を行います。社会的な課題などについて自分たちの

経験や調査をもとに語る番組を、学生主体で制作します。音声のみで伝える難しさを体験することで語彙力が磨かれたり、チーム活動のなかで自主性が養われたりと、自分の成長を実感しています。将来は、メディアをとおして私自身の考えや地元の魅力を発信していきたいです。

Projects #6

健康寿命の延伸

伊藤 麻莉奈さん

3年生
(愛知県立丹羽高等学校 出身)



高齢者が心身ともに自立して 健やかな暮らしを送るために

社会の超高齢化に伴って社会保障費が増大している昨今、健康寿命を延ばすための活動が目立っています。その一環として、「健康なまちづくりプロジェクト」では、ラジオ体操第3やストックウォーキング、ストレッチ体操、筋トレなどを高齢者の方々と一緒にを行います。学生主体となって

参加者を引っ張っていくなかでコミュニケーション能力やリーダーシップが鍛えられ、さらに自ら状況を察して行動する姿勢も身につきました。この実習で得られたスキルをもとに、卒業後は不動産デベロッパーとしてあらゆる地域のまちづくりに携わりたいです。

Seminars

ゼミ紹介

現代社会領域 渡辺 めぐみ ゼミ

興味関心の深化

自らの興味関心から広がる学びの可能性
テーマを追究する学問の楽しさを実感

データ分析を通じて、身近な社会現象を紐解く

渡辺ゼミでは、社会調査の手法やデータの分析方法など学術調査の手法について学修し、各々が興味ある分野への学びを深めます。特に印象深いのは、3年次に取り組んだグループ調査です。就職活動をはじめる当事者として他者の活動状況に興味をもち「龍谷大学3年生の就職意欲、就活不安の現状と就職活動状況の相関」に着目して調査をすすめました。当初は感覚的で漠然としていた疑問も、メンバーが収集した先行研究やデータの分析を通じて、「就職」という事象が学生の目にどう映るのか、不安や環境といった内的な要素が就職活動の進捗といかに関わるのか、ささいな疑問も論理的かつ学術的アプローチが可能であるとわかり、心理学や行動学といった多様な領域の専門知識を活かして理論を構築していく学びの楽しさを感じました。

真に学びたいと思える分野を追究する

現在は「特撮ヒーロー作品の設定からみる社会における理想モデルの変化」をテーマに卒業論文を執筆しています。子どもを対象に描かれるヒーローの人物設定や描写の変化から、各時代に生きる人々の意識の変容を読み解き「次世代への期待」をデータ分析の手法と論理的思考に基づいて逆説的に明らかにしていきます。調査や研究の過程で重要なのは、本当に追究したいと思えるテーマと出会うことです。他のゼミ生のテーマも多種多様で、類似性があっても個人の考え方やアプローチ法によって、掘り下げ方は異なります。意見交換は発見と驚きの連続で、私のテーマ選びにも大きな影響を与えました。卒業論文へスムーズに取り組むことができたのは、斬新なアイデアを共有してくれた仲間、興味に沿って助言してくださった先生のおかげだと感謝しています。



森 大毅さん

4年生
(滋賀県立東大津高等学校 出身)



ゼミで取り扱う学びのテーマ(例) [現代社会領域]

- 地域自治会と自主防災活動 ―滋賀県草津市大路区を事例として―
- 日本の都市計画における理想と現実
- トランスジェンダーを捉え直す ―性規範からの解放をめざして―
- 空気を読む教室 ―スクールカーストと友達のつながりについて―
- 日本の同性婚の見方について ―なぜ日本では同性婚が認められていないのか―
- 限界集落で寄宿生フリースクールを営む意義とは ―長浜市余呉町の施設を事例に―
- 限界集落化が住民の意識にもたらす影響 ―京都・久美浜―
- 終わりなき「美」の追求 ―共同体なき社会における美容整形―
- 「ナショナルな物語」の消化について考える



文化・メディア領域 松浦 哲郎 ゼミ

当たり前や常識を問い直す

見知らぬ場所に飛び込む勇気がくれた 新たな気づきと大きな自信

フィールドワークでコミュニケーション力を培う

松浦ゼミでは、街の商業施設における高齢化問題や日本の移民問題、不登校児童生徒の課題、地域メディアのあり方など、身近な社会課題を取り上げ、フィールドワーク（参与観察）を中心とした調査技法を身につけます。私がテーマに選んだのは「地元の朝市」です。週1回のペースで朝市に通い、買い物客や店舗スタッフ、運営の方々を対象に調査を続けています。最初はお互いに警戒心が強く、どう声を掛ければよいかわ戸惑う日々でした。それでも定期的に訪ねていると「大学生の子」と呼ばれていた状況から、今ではあだ名で呼んでもらえるほどの関係性ができました。一人で見知らぬ場所に飛び込む不安を取り除くには、自ら積極的に話しかけることが肝要です。初対面の方と少しずつ打ち解け、信頼関係を築けたことは大きな自信となりました。

社会に関心を持ち「当たり前」を問い直す

フィールドワークで得た最大の気づきは「当たり前や常識を疑う」姿勢です。例えば朝市で飛び交う「いつもありがとうございます」ということばは、つい聞き流してしまう当たり前の一言です。しかし、よく考えてみると、大型スーパーが点在する地域で小さな朝市を利用してくれる常連さんへの愛情が込められた挨拶かもしれません。会話や状況を細かく記録するなかで「当たり前」に隠された大切な意味を見出せるようになりました。松浦ゼミの魅力は、フィールドワークの成果を作品としても残せることです。私は卒業制作として「愛される地域朝市と見えない町の高齢化」を取り上げ、写真集制作に取り組んでいます。映像制作やメディアの授業で学んだスキルを活かして納得のいく写真集に仕上げ、地元の朝市に恩返ししたいと思います。



十塚 奈津さん

4年生
（京都府 龍谷大学付属平安高等学校 出身）



ゼミで取り扱う学びのテーマ（例）〔文化・メディア領域〕

- 美容整形 ― 有名人の SNS 公表から考える ―
- ICT を使ったコミュニケーションが社会関係へ及ぼす影響
- Instagram から見る若者の姿 ― 「いいね」を求める人々 ―
- 文芸表現における人間と社会 ― 現代の課題を探る ―
- 外来生物の描写の変化についての考察
- 銭湯にみるしぐさ・コミュニケーションの研究
- ファストファッションはなぜ流行するのか ― 現代日本の若者ファッションを中心に ―
- 外国人との多文化共生の必要性和展望
- ディズニー作品におけるプリンセスの「幸せ」の変容

Seminars

ゼミ紹介

健康・スポーツ社会領域 井上 辰樹 ゼミ

地域社会の健康促進

実際に地域へ足を運んで現状を調査し 健康課題に対する解決策を見つける

若者のスマホ依存が、健康に及ぼす影響を明らかにする

井上ゼミでは「健康でまちづくり」をテーマに、地域社会の健康促進という社会課題と向き合っています。私が着目したのは現代社会において問題視されている、若者のスマホ依存です。私たち大学生にとって今やスマホは、日常生活や日々の学修、就職活動にも欠かせない便利なツールとなりました。その一方、依存してしまうと、心身の健康に悪影響を及ぼします。既存の対策では効果が薄いという現状に対して、どのような解決策を導き出せるか、スマホ依存によって起こる健康問題にどのようにアプローチできるか、大学生を対象としたアンケートを実施して、若者のスマホ使用の実態や依存度を詳しく調査し、その結果からデジタルデトックスの自己実践につながる具体的な方法を見つけ出したいと思っています。

学生ならではの視点で、地域の健康づくりを考える

井上ゼミはフィールドワークが豊富です。私たちも、滋賀県湖南市で行われた健康増進事業に参加しました。そこでは、健康関連企業や市の職員の方々と連携して健康促進を浸透させる方法を検討し、学生ならではの視点から「運動・スポーツ関連健康支援資源マップ」の作成に取り組みました。健康づくりは個人の努力だけでは限界があり、地域全体で推進すべき重要な課題です。国や県を挙げて行うプロジェクトに携わった今回の経験は、これから社会活動を行っていくうえで確かな財産となるに違いありません。一つの問題に対して多様な視点で考えられるようになったのも、ゼミ活動をとおして得た大きな成果です。ゼミでの学びと経験を卒業研究や就職活動にも活かし、自分のスキルを発揮できる進路を実現したいと思います。



月川 至優さん

3年生
(広島県 広島新庄高等学校 出身)



その他の研究室テーマ [健康・スポーツ社会領域]

- 女性のダイエット志向と社会意識
- 大学生における抑うつ症状と生活習慣の関連性
- 高齢者にとってのフィットネスクラブの存在意義
- 地域密着型プロスポーツの担い手と支え手のあり方を検討する

- フィットネスクラブのイメージ向上に向けて
- ボランティア運営によるジュニアサッカークラブの課題とその改善策
- 感情と草野球のエスノグラフィー 草野球においてどのように感情が構築されるのかー
- 大学生の友人関係と孤立ー「ぼっち」から考える生きづらさ／生きやすさー
- 大学生にとって「ひとりの時間」とは



現代福祉領域 土田 美世子 ゼミ

子どもの幸せを守る

仮説と検証のプロセスから導き出す 子どもの成長を支える環境づくり

データ分析を通じて、子どもの幸せを考える

もともと関心が高かった児童福祉分野をさらに専門的に学びたいと考え、土田ゼミを選びました。このゼミでは、児童福祉の視点から子どもの幸せや権利について学び、座学と実践の両面からそのあり方を考えます。特に印象的なのは「子どもの育ちと家族」をテーマにしたオンラインアンケート調査です。子どもの成長に影響を与える家族の要因を考察した後、自分たちで立てた仮説をもとに質問項目を設定し、その結果をクロス集計や残差分析といった統計的手法を用いて検証しました。調査をとおりて、自ら立てた仮説を客観的に証明するには客観的なデータや統計的な数字で示すことが重要であると学びました。座学で得た知識と現場経験、そしてデータ分析を組み合わせることで、子どもの福祉への理解がより深まっていくのを感じています。



実践経験をもとに、公的支援のあり方を問う

インタビューやグループワークといった実践的な活動をとおりて1年間じっくり児童福祉について学び、現在は「引きこもり支援の今後のあり方」をテーマに卒業論文を執筆しています。社会福祉協議会で行われたソーシャルワーク実習で個別支援に携わったことで「本人は何を求めているのだろう」と意識するようになり、相手視点の支援が大切であると感じたからです。3年次からずっと「子どもたちにとってしあわせとは何か」と問い続けた経験は、放課後等デイサービスでのアルバイトや子どもの学習支援ボランティアなどの実践活動にも活かされています。子どもたちのしあわせや権利を守れる大人になるために、今の自分に何ができるのか。自問自答を繰り返しながらさらに学びを深め、子どもがしあわせに暮らせる社会づくりに貢献したいと思います。



西村 嘉記さん

4年生
(和歌山県立日高高等学校 出身)

その他の研究室テーマ [現代福祉領域]

- 若者が終活について考えるーエンディングノートから始める終活ー
- 子どもの自己肯定感を高めるための支援ー家庭環境との関係性ー
- 高齢者の孤立対策についてーシニア向けSNSを活用したゆるやかなつながりの促進ー
- 児童の福祉のための里親制度ー専門里親の増加に向けた取り組みについてー

- 高齢者が自宅で暮らし続けるための新たなサービスを考える
- 集団の中で多様な子どもたちが共に育つためにー学童保育に焦点を当ててー
- 生活保護制度とスティグマーイギリスの制度と歴史との比較からの考察ー
- 不登校児生徒への支援の現状と課題ー居場所の概念から見る不登校支援とはー
- 空き家問題の現状と対策ー空き家の利活用に向けてー
- 子どもの貧困対応における居場所の重要性

ソフトバンク株式会社

コンシューマ営業統括

西日本エリア営業本部 勤務

在学中は「社会」という誰もが当然どこでつながっているものを改めて細分化し、そこから見える課題との向き合い方を学びました。特に印象に残っているのは、社会調査士の資格取得をめざす「社会調査実習」と龍谷大学独自の「矯正・保護課程」プログラムです。一つのことをとことん掘り下げたことで、探究心と精神力が身につきました。また、100名ほどの学生が参加するサークル活動でも大きな学びを得ました。同じ目標に向かって朝から晩まで練習に明け暮れた経験は、営業職に必要な粘り強さにつながっていると感じます。現在は、営業以外にも店舗やメンバーのマネジメントから研修の企画立案・運営など、幅広い業務を担当しています。現状に満足せず、もっと多様な領域の業務に携われるよう研鑽を積んでいきたいと考えています。

柴崎 優衣さん

2018年卒業
(京都府 大谷高等学校 出身)

Life after G



新しいものを追求する社風を踏まえ、自己研鑽に努める毎日。拠点それぞれの地域や特性に応じた提案ができるよう見聞を広げています。

My Background



大学1年生

多くの出会いと充実した学びに恵まれました。学部やサークル、アルバイトなど、一気に世界が広がりました。



大学2年生

100名近いメンバーで同じ目標をめざして全国をまわり、演舞制作と練習に打ち込みました。時には他大学の学生とも交流を深めました。



大学3年生

社会調査実習の授業で奈良県天川村を訪ねました。泊まり込みで現地の方を取材し、地域社会の実態を肌で感じることができました。



大学4年生

交流関係が広がり、後輩もたくさんできました。卒業を前に、大学の後輩たちと一緒に母校も訪ねました。

オムロン株式会社 グローバル人財総務本部 人事部 勤務

現在は人事部に所属し、社員の異動や雇用契約、評価・昇格などの処遇管理を担当しています。社員一人ひとりが最大限に能力を発揮できるよう、それぞれのニーズに応じた支援を行うことが私の役割です。業務を遂行するうえで役立つのが、在学中に得た地域福祉の専門知識とコミュニケーション力です。少子高齢化時代における地域福祉のあり方を学び、家族福祉をテーマとした住民参加型の地域福祉を追究しました。ゼミ活動や現場実習でさまざまな人と関わりながら磨いた実践的なスキルは、性別や国籍、障がいの有無を問わないウェルビーイングな職場環境の実現にも大いに役立つのではないかと思います。福祉の視点を大切にしながら、オフィス改革メンバーの一員として多様な価値観を受け入れる組織づくりに貢献していきたいと考えています。

足立 茜さん

2021年卒業
(大阪府 大阪聖母女学院高等学校※ 出身)
※現：香里ヌヴェール学院高等学校

raduation

My Background



大学1年生

専門性の高い講義や仲間とのアクティビティ、すべてが新鮮でした。大学生活はとても刺激的で、毎日成長していく自分を実感しました。



大学2年生

授業や課題にともに取り組んだ仲間は、職業や住んでいる地域が違う今でも定期的に連絡を取り合って、食事や遊びに行く生涯の友です。



大学3年生

現場実習では社会福祉協議会活動を実践。実際に地域住民や専門職員と関わり、地域の福祉課題と福祉サービス連携の重要性を学びました。



大学4年生

コロナ禍でリモートが中心となるなか、ゼミメンバーと創意工夫しながら質の高いゼミ活動を続け、全員が卒業研究をやり遂げました。



社員それぞれの適正や能力を考慮しながら、誰もが安心して働ける職場づくりに注力。個の士気を高め、企業の成果につなげたいと考えています。

西村 歩さん

2021年卒業
(大阪府立和泉高等学校 出身)

読売新聞大阪本社

大津支局 勤務

在学中は、地域メディアを中心に学びました。なかでも特に印象深いのは「学生記者実習」です。取材のアポイント取りから新聞掲載まで、学生記者としてすべて自分自身で担当しました。限られた時間で濃密な取材を行った実習を通じて、記者という職業にやりがいを感じ、メディアへの関心も高まりました。年次が上がるにつれ、将来の夢も明確になっていったことを覚えています。現在は「行政・教育」の担当記者として、自治体が実施する施策や行政に関わる問題などを取材しています。学生時代に培った取材の基礎と、相手への敬意を払う丁寧な取材姿勢が、記者としての土台になっているのは間違いありません。幅広い分野の取材経験を重ね、自分の色を出せる記者に成長したいと思います。そして、多様な切り口からスポーツの魅力を伝えられる運動部の記者をめざします。



警察・検察・裁判など、担当の垣根を越えた複数人のチームで協力しながら取材をすることも。丁寧な取材とわかりやすい記事の執筆に努めています。

My Background



大学1・2年生

学業、サークル、アルバイト、資格試験対策など、高校生活では経験できなかった多くのことに挑戦し、見聞を深めることができました。



大学3年生

2018年の西日本豪雨で被災した岡山県倉敷市の仮設住宅でボランティアを経験。復興の課題を目の当たりにした経験は、災害取材に活かしています。



大学3年生

「学生記者実習」で取材から執筆まですべてを担当。あらゆる世代の方との対話を重ね、自分の記事が新聞に掲載される喜びを実感しました。



大学4年生

「地域の商店街の現在」をテーマに卒業論文を執筆しました。地元の商店街が衰退する原因や課題、描く未来など、現地調査に奔走しました。

三菱UFJ モルガン・スタンレー証券株式会社

人事部採用育成課 勤務

社会学部では、地域に根ざした福祉活動やダイバーシティ、ワーキングプア問題への理解を深めました。介護施設での実習をとおして、社会が抱える課題に向き合う姿勢も養われました。卒業後は証券会社でコンサルティング業務を担当し、資産運用から相続対策までお客様のライフプランに合わせたソリューションを提供してきました。お客様のなかには社会に対する問題意識が高い方も多くいらっしゃり、社会課題と向き合った経験が非常に役立ちました。また、福祉の現場で養ったコミュニケーション力もお客さまとの信頼関係構築に活かされています。現在は、人事部で新卒採用業務に携わっています。今後は在学中に得た知識やスキルをキャリアアップにつなげ、多様化する社会で圧倒的な存在感を示せるビジネスパーソンへ成長していきたいと考えています。



コンサルティング業務の基本は、相手に寄り添うこと。私との出会いがお客様の幸せにつながるよう願いながら、誠実な対応に努めています。

My Background



大学1年生

サッカーサークルに入り、たくさんの仲間ができました。学業とアルバイトも両立し充実した大学生活を過ごしました。



大学2年生

大学のプログラムでカリフォルニア州パークレーに留学。語学学校と幼稚園の教育実習プログラムを受講し、新たな価値観に出会いました。



大学3年生

頼もしい仲間とともにゼミの活動に没頭。福祉の現場を肌で感じました。当時の多様な経験は自己成長につながったと感じます。



大学4年生

前半は就職活動に集中し、現在の会社から内定をいただきました。後半は国内外を旅行し、さまざまな貴重な経験をしました。



高崎 慎一郎さん

2019年卒業
(大阪府立牧野高等学校 出身)



社会学部の資格・就職

総合社会学科

取得可能な免許・資格

- 中学校教諭一種免許状（社会）
- 高等学校教諭一種免許状（公民）
- 社会調査士
- レクリエーションインストラクター※1
- 健康教育専門士※1
- 本願寺派教師資格（受験資格）
- 社会福祉士（国家試験受験資格）※3
- 精神保健福祉士（国家試験受験資格）※2※3

※1：健康・スポーツ社会領域の学生のみ取得可能

※2：精神保健福祉士（国家試験受験資格）は入学後、資格取得に際して選考等の制限が入る場合があります

※3：4年間で社会福祉士（国家試験受験資格）と精神保健福祉士（国家試験受験資格）の両方を取得することはできません

めざす職業・進路

- メーカー（食品、化粧品、化学、インテリア、アパレル、印刷、自動車、電気・電子機器、半導体・電子部品、住宅、繊維など）
- 商社
- 銀行・証券・保険・金融
- 百貨店・専門店・流通・小売
- サービス・インフラ（観光、スポーツ関連、教育、福祉、不動産、航空、鉄道、エネルギー、人材サービス、コンサルタントなど）
- 広告・通信・マスコミ（出版・雑誌、放送・テレビ・ラジオ、新聞、通信）
- IT・ソフトウェア・情報処理
- 社会福祉士、精神保健福祉士等の資格を活かし、行政機関や相談支援事業所、各種社会福祉施設等の福祉分野など
- 公務員（国家・地方）、国際機関の職員、NPOやNGO、社会的企業など

資格取得状況

少子高齢化がすすむ現代社会において、福祉のプロフェッショナルを求める声が年々高まっています。

現行の現代福祉学科では社会福祉士などの資格取得をめざす学生が多く、合格率は常に全国平均を上回っており、優れた人材を輩出しています。

2024年度
社会学部 社会福祉士
国家試験合格率（新卒）

76.3%

※全国平均は56.3%

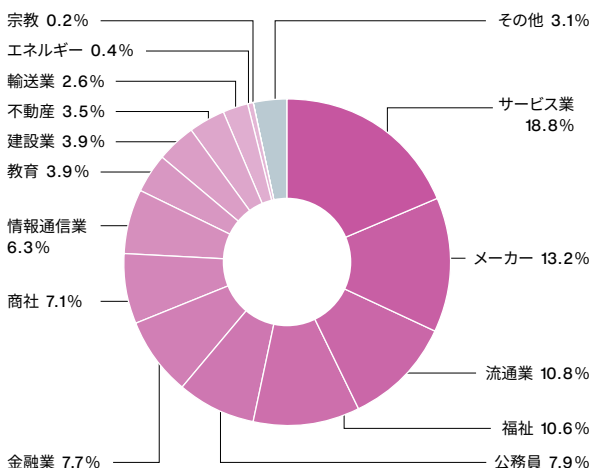
2024年度
社会学部 精神保健福祉士
国家試験合格率（新卒）

80.0%

※全国平均は70.7%

就職状況（2024年3月卒業生）

社会学部



〔主な就職先〕

- 株式会社伊藤園
- レンゴー株式会社
- 日本製鉄株式会社
- 三菱重工業株式会社
- 株式会社村田製作所
- 東洋シヤッター株式会社
- パナソニック株式会社
- スズキ株式会社
- 日産自動車株式会社
- 岩谷産業株式会社
- 近畿日本鉄道株式会社
- 株式会社みずほ銀行
- 株式会社京都銀行
- 株式会社関西みらい銀行
- 野村證券株式会社
- 日本生命保険相互会社
- 株式会社京都新聞社
- 富士通株式会社
- 株式会社日立システムズ
- 株式会社NTTデータ関西
- 富士ソフト株式会社
- 株式会社山陰放送
- 株式会社ニトリ
- スターバックス コーヒー ジャパン 株式会社
- 日本赤十字社
- 日本郵便株式会社
- 法務省
- 京都府庁
- 京都府教育委員会 など

※主な就職先は業種順に記載



川端 真綸さん
4年生
(大阪府立泉陽高等学校 出身)

大阪市役所 内定

共に考え、
悩むことができる福祉職員に

過去に行政の社会福祉士の方に助けていただいた経験がきっかけで、福祉職員を志しました。また、在学中はソーシャルワーク実習で職員や利用者、連携機関と共通の課題に取り組み、多角的な考察力を身につけることができました。今後は自身の当事者性や在学中に培った豊富な経験を活かして、市民の方々に敬意を忘れずに接することができる社会福祉士を目指します。



山本 勢輔さん
4年生
(愛媛県立今治西高等学校 出身)

関西電力株式会社 内定

地域の課題と向き合った経験が
未来の指針に

在学中の学びで特に印象深いのは、Jリーグクラブによる地方創生をテーマにした卒業研究です。私の地元である今治のクラブが地域社会に与える影響を調べるため、フロントスタッフへの聞き取り調査やゼミでの議論を重ね、地域活性化の可能性を探りました。この過程で身についた「課題を見つけ、解決策を導く力」は、就職活動でも大きな強みとなりました。



田中 優太さん
4年生
(滋賀県立米原高等学校 出身)

大阪国税局 内定

多様な立場の人への対応力が
就職活動の自信に

卒業研究で、地域鉄道の存続という問題に取り組みました。高齢者に対する公共交通機関の重要性が増す一方、少子化による利用者減少で各地のローカル線は存続の危機を迎えています。企業へのインタビュー調査をととしてその解決策を探るなかで、目上の方への対応力が身につく、公務員の面接の際も自信をもって自分の考えを述べることができました。



宮本 栞帆さん
4年生
(京都府 京都成章高等学校 出身)

株式会社ニトリ 内定

ボランティア経験を
キャリアへつなげる

「第三の居場所の重要性」を研究テーマとし、物理的な空間づくりが人の心理にどう影響するか探究しました。実際に子ども食堂でボランティアに参加し、地域の居場所の重要性を改めて理解しました。そうして確立した「居場所づくり」への独自の視点は、面接でも高く評価していただけました。今後は商品とサービスの両面から、心地よい居場所を提供していきます。

Hot Topics

1 新たにプロジェクトワークルूमを整備

実習などの準備や学生同士のワークを自由に行うことができるプロジェクトワークルームを整備しました。社会学部生ならどなたでも使用することができます。モニターやプロジェクターも整備し、さまざまな使い方が可能です。



社会学部の取り組み

2 社会学部独自の海外フィールドワークを展開

1年生から参加可能な社会学部生のための海外フィールドワークです。日本の社会や文化を相対的に見ることができ、研究のフィールドが日本だけではないと気付くことができます。渡航先はネパール、中国、オーストラリアを予定しています。



深草キャンパス

京都市伏見区深草塚本町67
Tel 077-543-7760 shakai@ad.ryukoku.ac.jp

大阪、奈良、兵庫から好アクセス

JR「大阪」駅 → 約42分
京阪「京橋」駅 → 約41分
近鉄「奈良」駅 → 約43分
JR「三ノ宮」駅 → 約63分

2025年4月、社会学部は深草キャンパスに移転しました。

龍谷大学のブランドストーリー

世界は驚くべきスピードでその姿を変え、
将来の予測が難しい時代となっています。
いま必要なことは、「学び」を深めること。
「つながり」に目覚めること。
龍谷大学は「まごころある市民」を育てていきます。

自らを見つめ直し、他者への思いやりを発動する。
自分だけでなく他の誰かの安らぎのために行動する。
それが、私たちが大切にしている
「自省利他」であり、「まごころ」です。
その心があれば、激しい変化の中でも本質を見極め、
変革への一歩を踏み出すことができるはず。

探究心が沸き上がる喜びを原動力に、
より良い社会を構築するために。
新しい価値を創造するために。

私たちは、大学を「心」と「知」と「行動」の拠点として、
地球規模で広がる課題に立ち向かいます。
1639年の創立以来、貫いてきた進取の精神、
そして日々積み上げる学びをもとに、様々な人と手を携えながら、
誠実に地域や社会の発展に力を尽くしていきます。

豊かな多様性の中で、心と心がつながる。人と人が支え合う。
その先に、社会の新しい可能性が生まれていく。
龍谷大学が動く。未来が輝く。

You, Unlimited

龍谷大学 社会学部

あらゆる「壁」や「違い」を乗り越えるために、「まごころ」を持ち、
「人間・社会・自然」について深く考える人を育む。
それが、龍谷大学の教育のあり方です。

自分自身を省み、人の痛みに感応して、
他者を受け容れ理解する力を持つ。
人類が直面するリアルな課題と真摯に向き合う。
そして様々な学びを通じて本質を見極める目を養い、
自らの可能性を広げていきます。



<https://www.soc.ryukoku.ac.jp>

※掲載の学年、所属は取材時のものです。

2025年4月発行